地

無飽三賊圖會

巻之二

異國人物
畜獸部
禽鳥部
介貝部

2

門へ 13
帙 1317
巻 2

柏平

無飽三貼圖會巻第二目録

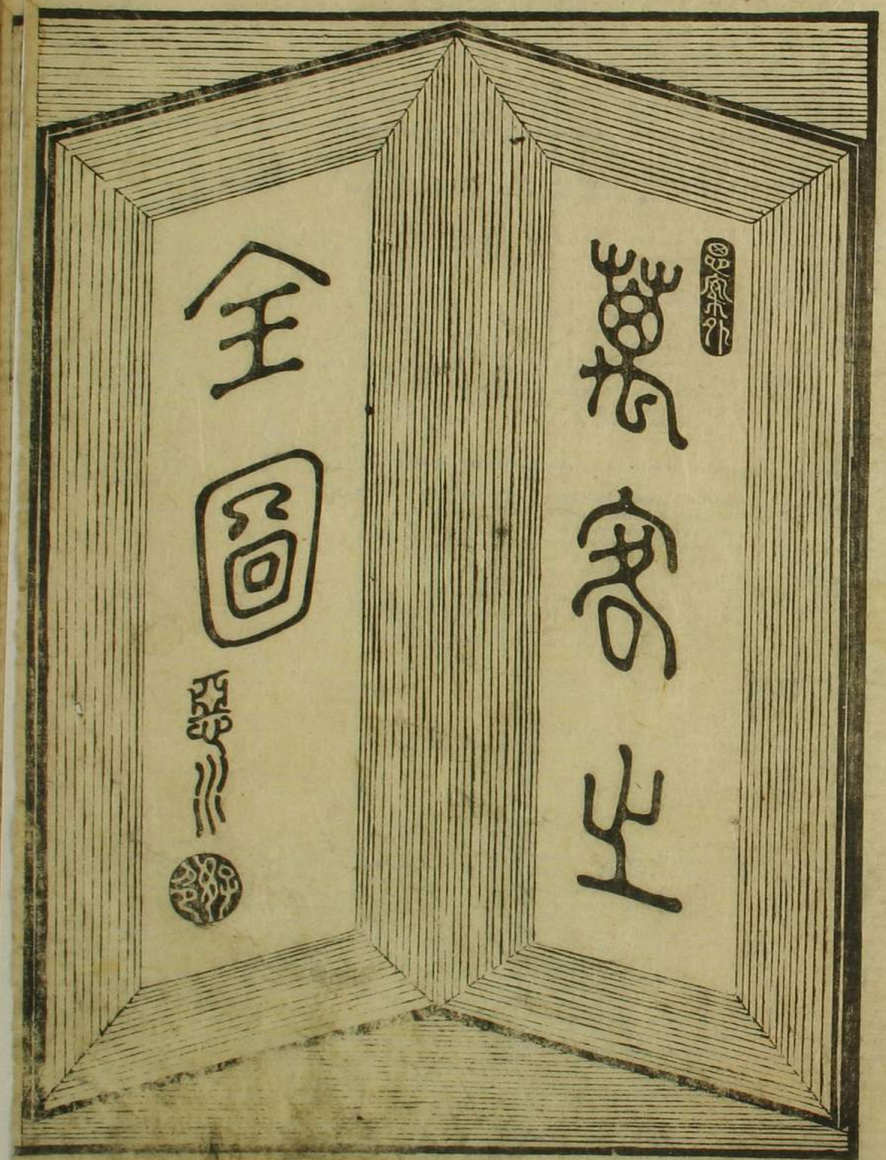
異國人物

萬客之全圖
贅澤
粹奮
大盡国
雲天連眼
強我理
粹我理
難聞夢連
嫖客

畜獣類

寢鯉
野氣神
苦累獅子
奉公猿
犬
化連
毛通

柏平



禽の部

- 鵠季鳥
- 親方鳥
- 便慶鳥
- 宇津羅
- 夜鷹

蟲の部

- 髮切虫
- 日柄蝶
- 口蟲
- 舌清蟲
- 蝗

介貝の部

- 憂名貝
- 薫貝
- 紅葉貝
- 油貝
- 無二貝
- 甲螺

萬客之全圖

大日本国ハ国ノ形蜻蛉蟲ニ似タルヲ以テ
神武天皇始テ豊秋津洲ト号給フ
此ニ圖スル国ハ
其ハ形チ意ト
云字ニ
似タ
リ
意ハ
大ヒニ
止難キモノ
ナル故ニ

ハシヽン
ヨヨバシ
ホレザン
大盡国
ヲトコガリ
カレペキ
ヲモワク
ミジメ
粹我理
ミテクレ
強我理
キイタフウ
ドチコ
嫖客
花街国
青樓

大不止徒国ト
號ス
四面ヲ意之海ト
号ケ思ノ濤洋ト
シテ其廣大ナル事
タヽ難シ又国中ニ
川有是ヲ粹ガ川ト云
此源未詳皆秋国粹源
ヤト思ヘドモ真ノ粹源ニ
アラズト云

スイルヒ
ゴウ
ムカリ
通人国
騒客国
雲天連眼
ベツタリ
ムスコベヤ
難浦
夷連
意鬱
スカタレ
アハテ
贅澤
ゼイバリ
遊里

大盡国

一名モチヽル

粹我理

一名ミテクレ

○大盡国一名「モチヽル」這国人物柔和ふして賤しう〳〵萬能ふ熟して活氣あり假ふも各嗇の意あく下を憐〳〵悪言を吐ど国富饒ある故十日の雨日の居續ふ吉樓娼家を霑〳〵五日の風の便ふ花車中居を忍りて月ふ醉花ふ

贅澤

又贅張

數加妻夢

雲天連眼

又亞和天騒客

酒池肉林ふあそび〳〵娼樂を恣ふあ〳〵太平を唱ふ其国王を通人とふ其余○ホタヘズキ○ナトユガリ○ハミジヽル○カレペキホの奔国あれども先大盡国を繁花第一の国○粹我理国一名「ミテクレ」這国の人物至つ〳〵心とめ

難滿
連

一名ベッタリ
又意閑

粹奮

又クロガリ

強秋理

一名キイタフウ

狂い〜く萬藝ふ通ぜんこ〜〜一も遂らる支を詩歌連詼の門最を通石印朱肉を調へるたぐひ物ての藝是ゑ等〜〜藥鑵藝と唱へく煮るも早く凉るも早しと云へるさんぐも通人の分れおのく近附の如く罵り一回對もる婦い

嫖客

一名ドチコ

盡夜天狗風吹支ごるぐ〜

○贅澤一名「ゼイバリ」「スカタル」「ルジヤレ」這回ふ

人氣あ〜く虚言を專と〜火術をたゝ〜あ〜て紙

衆人ふ對〜鉄炮をくれを支鞭〜く世間の悪言を

吐唾壺より蛇を山〜術をおこのひ宴席ふ者をもし

悉く我を慕ふと心得我国粹の源ありこと唱ふ〜ども一個の量見を立て慢心を發もる故ふ風去ら〜〜

輩友の馴染を買ふ慢心の鼻をいふ〳〵化粧室の穴を謗る青樓の仙人と思ひ哥妓娼婦ふ爪彈〳〵らと あぐ〳〵是を通人と意得る褌の下国ふ〳〵国人の渾名を千三萬八と唱ふ

○雲天連眼一名「アワテ」「アレダラ」這国ハ通人国ふ遠く隔て〳〵夷国ふ〳〵魂首ふあ〳〵〳〵脛の下ふ〳〵妾席ふ有〳〵須臾間も穏あらず未熟の小哥を〳〵ひ一二の舞を自慢なし〳〵両肌をぬぎ〳〵躍狂ふ至つて騒〳〵く諸芝あく芝ちゆき人氣也

○難間夏連一名「イヤ〳〵」這国の人物至つて〳〵癖鉄なを者〳〵延を流を病有躬自一個ゐて遊ぶ芝鮭〳〵ば〳〵〳〵余人ふ樂〳〵まる〳〵芝あり簪の比翼紋ふ恪氣を發し肝積酒ふ長き夜を明の国風なるを然ども贅澤国ゑハ遠ひ〳〵人氣正直あり

○辮奮一名「クロガリ」這国ハ人物粹つ〳〵芝を專を〳〵衣裳手廻りの器物も人のまぐ用ひざる處をこのを流行ふおく〳〵芝を深く恥〳〵言放〳〵の詞安行の格ふ迫心を配り遊樂の席ふ埜〳〵落を執夏を立〳〵唯己恢〳〵

日をおくる。チヤラクラフ。キイタフウ。ヅボラフ等の分国
多イ
○強我理一名「ミケヲレミ」這国ハ意地つよ〳〵惣て居な
ゞ〳〵深く〳〵容子手管も喰ぬ点ふ〳〵使奇めきた〳〵
義理詰の迫婦ハ言へゞ〳〵心の底ふかいゆゑ多く晴〳〵
ぬ夏ふ金銀を費〳〵未熟兵法ふ身の疵をなやまゞ
借馬より落て難波ふ通ひ負おゞ〳〵も強夏の〳〵い〳〵
ち〳〵も国風也
○嫖客国一名「ドチコ」至つ〳〵下国ふ〳〵て国人各〳〵

本名を言ぶ〳〵て渾名をよぶ已の〳〵使者の心ゆ〳〵其実を
強う〳〵弱さふ當て強きを避るの人氣也全體ふ模様有て
鼻先ふ頬夢をあ〳〵黄昏より出て〳〵小哥あんど声
高ふ〳〵ひ傍若無人ふ横行して這国暑寒を分らゞ
腹當をあ〳〵暗雨とも足踏をちく〳〵国外ふスカンヒン。チ
ヤンナイ。ホの国名あり

国産之部

○鯉い蒲團の島ふ深く身をかく〳〵下駄の音隠様
子の音をち〳〵忽ち偽聘をあ〳〵〳〵魅そるゞ四一ふ

号〻貍寝入ニ云此時女狐
来つゝ是を又誑ら其ば貍
正躰を顯し遂ふ狐ふ交
腹鼓をうつて心を奪ふ
とゝ云へる三獸を狐貍と云ふ故て
此道ニ甚く迷ふとゝろ云
とゝ云へる。奉公猿ハふる時
山林を山〻島ふいてる是
を山岩〻とゝ云へり

島の水ふなれ〻自ら悪
賢く是を猿智恵とゝ
かゝる時ハ麻を追両親の手
ゐも合ざゝ人目を忍ん
ぐ菓を喰ふ号〻つま
〻喰ふの喰ひそふ
○化連ハ虚實国のす間
濵ふ生ずる獸ふ〻其
声いやおろ〻く舌のうど

狗 又犬 俗ニ犬悦

狒狒 又毛通 俗ニ年滿

夏く諸方ふゆるさらく歯
言とゆゆる故ふ化連方
くくと云夏有古語ふ化連
も醉ぬれバ泥ふ躍ると云
按是顎頭の聖代ふ出る
ものなりんを
○野氣神ハ牝の玉かへて
牡の玉くるゝが故ふ野氣
神とある一名。タンキ 又

獅子 一名 苦累獅子 尾ふ央のつきたる影

夏ふく喰ふものを悉く口より吐といへ共其色青く又土の
如し是泥より生ぜし故ふ鳥ハ抹ふひのもんぐ其羽
木の葉のごく魚ハ水ふすんぐ其鱗波ふ似ようれ自
然の道理ふあれバ犬悦泥より生じて其色土のごく成も
○フルキ云ハ云膽至つく犬
く氣短ゝき故ふ此獸一
朝の怒ふ其身を忘ると
云へり
○犬ハ食物下ふ便をする

宜ありうんくゝと吹く水を飲夏鞨〳〵く色を變じるゞ
故ゆ犬を犬吐〳〵て色を變るとゆ云る古語あり
○狒狒俗に毛通と云何もの島ゆも三疋つゝもあり華
山ゆ育つ奉公猿年を經く狒〳〵とある人の氣をよく
取獸ゆ〳〵て是ゆ出會者おわくい身をうしなゝと云
○獅子ハ其種類多〳〵「ムスコベヤ」より出るを波津加獅
子と云「ホレテル」より來るを宇連獅子と云「ヘレ子と」
より生ずるを忌々獅子と云「ベツタリ」より來るハ阿徒
黒獅子以也良獅子「チヤラクラ」より渡るを宇曽良獅

子と云「ナニタル」より來る馬廉羅獅子と号く「レウ
タル」より出るハ加難獅子と云り此ゆ圖もるハ苦累獅子
と云く蕗最国無心城の邊ゆ生ゞ尻ゆ火のつきたる時ハ
胸をいぶきて食ゆすまぶと云是獅子苦を報ひるべし
○此余雀頭の白鼠江州より出る猫肥滿国の家ゆど
數多あれども古又もぐれば後篇ゆゆどりく此處に
○蕗蒼鳥一名カケ鳥又留鳥書出鳥と云此鳥とび
めぐる時ハ惣て世間もぐゆるゞ別して遊里より來る
鳥ハ其毛色りつゝ美〳〵き雌鳥也去つれども此鳥人

家ふ入夜あらしうぶ若飛入る声高く轉るを忌べし〳〵是乱の基也

○辨鶏ハ大盡国ふ近づき又ハムスコベやなどふ来つく国人をそゝのゝし豊道の酒池肉林ふこりのひかをとゝ取めへカスリ鳥ゝも云必ずしも此鳥ふ近よる夜

あられ心のきれざる悪鳥なる故詩ふも悪鳥なゝ氣ぶきれぬと云へりとや

○夜鷹一名ヒヘ鳥黄昏より濱辺ふ来つゝ浮氣鳥やりめ鳥をまどりに多く咽ふ疵あり此鳥ふ近づく者ハ濕毒をうけ彼穿胸国のごく胸ふ穴

生じ又ハ頭ふも穴の明夏あり夜鷹の餌ふハ夜泣の
湿飩などを食ひるを薬喰ふ
○鷦鷯ハ晝夜線香の花の下ふすて花の蘂をとぞく
暑き時ハ笑をふく〳〵少き時ハ眼を怒し子飼鳥を
白眼つきゆ高く囀る声耳をたゝぬく故〳〵たくと
号く這鳥胸より肩へうけ爪あり其尖き夏鮎手の
如し一名欲の鵰ふも云ふ圖ふる雄鳥あんでも
都く雌鳥おゝし
○鶉一名思鳥とも云雌鳥をふく慕へども心ふまるべ

我身ふ秋風の立〳〵浮滝の栗ふ落るおりひとれし
意草ふふく忍び〳〵只ふふく〳〵と日を送るもへ
宇津羅ふも云又片鶉ふいと哀ふあることの也

天牛 一名ドク

鳳蝶 一名日柄蝶

口蟲 一名口〻虫

蟔 一名イラ

舌清虫 一名ウガイ

○天牛ハ娼婦の髪を喰切虫也へ斯号く娼婦こゝろへ
有〻切へかへつ〻幸ひを得夏あり燒野ふ生ぜる虫を
不意ふ飛来つ〻喰ふ甚〻きハ命をゝ〻あり有
故ふ是を毒と云
○鳳蝶一名を日柄蝶と云冬十二月の末より生じ春正月こ
至り飛めぐる夏夥〻〻人を見つゝ泊すく去ぶ
こゝ〻〻跡さきめく痛むこゝ是をおそる人ハ其飛
めぐる比ふハ変〻〻通ぶ蟄〻〻のち通ふこゝ
○口蟲一名口〻虫こゝ〻〻多くハ人目あさ暗處ふ生じ

雌ハ色紅のごく黒く光る歯あり又白もあり雄ハいろ
〻〻赤く〻て歯白〻雌の虫ハ舌をゝ〻戎ハ脇頰
あごをゝむ夏あり其毒氣腹中ふ入〻心氣を動し
身をゝ〻〻あふ大夏ふ至る夏有此虫ふ延づくそのの
心得をゝくべ〻此虫朝夕ふ水をゝ〻〻其歯をゝ〻ぐき
歯のすき間ふ麻苧の類ひを通〻て清むる夏
甲家ふもあるふ生ぜるかゝぶ清ゝ〻ぶ
もる夏花柳の街あゝぐ
あゝ〻感心〻〻葉をゝ〻

○舌清蟲ハ妻ハ花街の井邊ふ生ぜかしらの色紅の
ごゝ朝夕娼婦の口ふ入〳〵めぐり時ハ首をさゞめるゝ
夏あり一名を柳の虫とゝ
○鰥ハいづれの人家ふも有〳〵くゝやゝいとくさきた虫
あゝゝ故いとむゝとゝ然ども至つゝ身の為とありてよきき
虫あるを若き人あゝつゝ是を忌嫌ふ夏甚し
是良藥口ふ苦きあゝひあれば此蟲のいとくを
辛抱〳〵身をおさむる人ハ其身堅固あるべゝ
○蜆俗ゝ丸身貝とゝ〳〵浮世を秋の比ふ至り意のふち

瀬又ハ義理の海ふ生ぜ思の
川水のすゑぬ聚ふ生じゝ
浪の心ふ生ぜ〳〵其身ふ
廻ること五更ふ憂〳〵丸すると
とゝ又丸損ふも有故ふ憂名
貝とも云真珠と号〳〵
○紅葉貝ハ風呂の湯畠ふ
生じ白き泡をふき出した貝
ふ〳〵至つゝ清きとのあり

薫貝　俗ニ懸香貝

又白貝　トモ云

油貝

一名銀出貝

甲螺

一名雛妓髪

故ふ島〳〵の蜃の子ふ合ひ
と〻〻身を清むる具とこれ
一名を磨貝袋貝とも云風
是を好んで喰ふとも
○無二貝俗ニ吸出貝といふ紀
州濱之海より出る貝ふ〳〵く
よ〳〵ものを吸出へふ斯号く
相州の濱邊ふ是を多く拾
ふと云傳へり

○白貝ハ肌鼻の潮の産也其色紅ふして白ひ有これを
聞者たちまち心を動り〳〵氣を奪れ魂身ふ添ぬと
いふ
○銀出貝ハ礒邊の松ゞ根ふ多く有肉ハ貝ふ一ちい有く
よ〳〵白ふ是をとり〳〵髪ふ付るとよ〳〵光澤をいぐらと
故ふ油貝といふ松ゞ貝ともいふ玄色青有又黄ある有
○甲螺ハ其ハ色黑く油氣ありて女の髩ふ似るゆ雛妓
島の淨瑠璃ふ蜃人のいへる螢螺のまりのごとく髩も
といへるも這甲螺の類也年若き蜃の子多く是を拾

柏平

故ふ甲螺女ふも号〳〵ニ云

○餘紙有ふまゝ〳〵近刻の新著を述る

○春霞猪名廼篠原　曉鐘成編　并畫　全五冊

○小倉百首類題噺　全　全三冊

○春情雪の東風菜　全　全六冊

無飽三賊圖會二之卷終

柏平

アニノ十四